



## ご案内『徳次郎石研究会』

大学の皆様などと連携して故郷の石を掘り起こしませんか！  
生活文化の石の野州を科学と文化で探求する

令和5年度 新たに大学などの皆さまを仲間に募集しております。



### 県民の誇り 大谷石等の故郷の石の文化

町を行くと、大谷石の塀・石倉を多く見かけます。なぜか、『ほっと』した気持ちがいたします。それは、長い間慣れ親しんだものが、体の中にあるものがあるのかも知れません。私たちは大地の上に立っているとします。土があり、その5～10m下には、石の層に行きつくのかもしれませんが。それは、大谷石が準じた石の層か何かです。きっと、私たちの心と体に、風情と一体化したものを与えてくれて生きている。住む県民の、〈アイデンティティ〉『粹』ともいえるのでしょうか。

### とくじら 徳次郎 石研究会の目的は！

〈徳次郎石研究会〉は、宇都宮富屋地区西部国本石産地に隣接した、山中から産出した白い色の凝灰岩について研究することから出発しました。その研究は、隣接の国本・豊郷地区に及び現在は栃木県全体を視野に入れています。(野州石造文化圏)それぞれの、石産地には独自の石文化が発展いたしました。徳次郎は、歴史的に、江戸時代の日光街道の隆盛とともにあり関連した発展がみられます。現在は、地層の連続性のつながりから、近接の国本・豊郷地区の石産地に研究の対象がさらに広がります。

研究対象が拡大したのには、もっと重要な理由があります。それは、かつて石産業に従事した人たちの、多くの方々が亡くなられていく現状です。今、わずかに残る証人の方からでも、記録を取っておかないと、野州の採石の事実ですら、永遠に忘れ去られてしまう、ことになりかねません。これは石の研究するものにとって、一番危惧するところです。例え、不十分でも凝灰岩の石文化の記録を残したい、今以上のチャンスは将来訪れず、正に、本会の使命 といって過言ではありません。



日本の軟石の分布と「石の町」小林・安森

### これらの石を科学してみる

日本は火山国であり、様々な種類の凝灰岩が採石されてきた。そしてそれが、石造建築物を有する『石のまち』として生きてきた。

各地の相互の岩質の比較と、町同士のネットワークの試みが、当会、研究者によって始まっている。歴史を遡っても、日本の採石の地層の関連性が興味深いし、将来的にも国家ビジョンとしても、グリーントフをたどるかの如く科学と文化の旅、その先のシルクロードへと、夢膨らむ研究です。

### これらの石を文化してみる

その歴史的な民による採石と産業の形態を知る必要があります。それには古文書でもあればいいのですが、ほぼ聞き取り調査です。実際、当事者にかかわる人がいたうれしさと、古老の方々のお話にも興味深く、楽しいふれあいのひと時です。

江戸・明治・大正へと社会の変遷な中に、農業に従事しながらの「無名は有名に勝る」とも言われる優れた民による技術の習得と発展には驚愕の世界に接します。

あるいは、日本は石の文化でない、木の文化と、いわれながら、石の忘れ去ってしまった、多くの地方文化について、掘り起こしの機運が全国各地で見られます。



## ご案内『徳次郎石研究会』

地球の地域への贈り物 自然石を研究する  
ロストワールドを産学民で訪ねる故郷の旅？



### 宇都宮の採石場のイメージ図 (網掛けは、今後の重点調査区域を示す)



採石地イメージ図 2020 中川

採石された場所だけでも、石の名称に合わせて、宇都宮の市内だけでも、16か所が確認されています。これらから、石の色だけでも、面白いことに、白・赤・青・黄の凝灰岩を見ることができます。石のきめもまちまち、

火に強い弱い、それぞれ性質が違います。そして、集落の民とともにあった文化が、宗教的オブジェから建築へと、伝統文化と融合して、花開いた石造文化群を野州(栃木県)全域に見ることができるのです。それらは、日本列島をベルトゾーンとして、帯状に繋がる世界にひろがります。これは世界的にはどんな存在なのか。徳次郎の地から、地元の方々と交流して野州の各地に展開します。

### 私たちの心のふるさと故郷の石



昭和58頃大類智樹氏提供  
日本遺産「星が丘の坂道」

昔懐かしい、こんな石の風情に囲まれたこの町であったことを、思い出します。資料発見もいっすね

### 無名は有名に勝る？ 今後、作品を見ることができるようです

県内には、蔵やオブジェの石造物件を見ることが出来ます。これらは、実に美しい！市井の民による石造作品です。大切に保存して、いつもでも伝えて



市井の石工や大工の建造物 徳次郎西根庄屋蔵

いかなればなりません。凝灰岩の文化は『百年文化』という、例えもある通り、およそ百年で新しいものを作り直し、継続させるというのです。危うさを、人々の心に愛でているものなのです。

火成岩のように何千年続くものでなく、民がつなげていく文化です。石は滅して土にかえる、輪廻転生、それが野州の民の心意気(県民性)と案外繋がっているのかも知れません。いつも出しゃばらない下向きな庶民の気質が、野州の民のアイデンティティとして息づいているのかもしれない。

### 徳次郎石研究会は産学民 連携で！

今年度からは、特に大学の先生・生徒さん等新たな活力に！ご参加を期待しております！

■ 採石場跡の情報(場所・歴史) ■ 面白い石造建造物(建物・オブジェ) ■ 石造物の創造 ■ 石仏や石碑 ■ 心の町の景観への活用

■ 当会年度報告書 宇都宮市内 県市の図書館で

■ お問い合わせ (中川) 08034606569

centralriver1972@wa2.so-net.ne.jp